

復興支援フォーラムニュース No. 70

(URL <http://www5a.biglobe.ne.jp/~tkonno/FK-forum.html>)

<事務連絡先> 今野順夫 (tkonno67@gmail.com)
=====

『理解の復興』と『生活の復興』・各論を超えて

～福島学構築のプロジェクトの取り組み～

福島大学うつくしまふくしま未来支援センター特任研究員 ・ 開沼博

- 1 何をやっているか
- 2 結局、被災地の何が問題なのか？
(補足資料1:いまの福島を理解するための12の数字)
- 3 「理解の復興」と「生活の復興」
- 4 今後の復興を考えるためのモデル1:「生活の安心」モデル
- 5 今後の復興を考えるためのモデル2:「課題設定拡張」モデル
- 6 今後の復興を考えるためのモデル3:復興三方良し
- 7 いま必要なこと:こんなことやっています
- 8 事例1:福島エクスカージョン
(補足資料2:福島エクスカージョンについて)
(補足資料3:20140614福島エクスカージョン資料)
- 9 事例2:リーダーシップモメント
(補足資料4:20140514福島を通じて『リーダーシップ』の在り方を学ぶ)

第67回ふくしま復興支援フォーラムでのご意見等

第67回ふくしま復興支援フォーラムを開催しました。渡辺利綱氏（大熊町長）から「原子力災害から復興にむけて～大熊町の現状と課題～」をテーマに報告をいただきました。関心も高く、福島大学生23人（今井ゼミ）も含め、90人が参加、活発な質疑応答がなされましたが、会場で提出されたご意見(感想)等は、以下の通りです。

~~~~~

★ 本当の現実を教えてもらうことができよかった。課題は見えているので、時間や資金などはかかるが、少しずつ課題をなくして行ってほしい。また、被災者に対するメンタルケアを忘れないであげてほしい。（Y.T）

★ 復興計画は大多数に反対されてもいい、絵に描いた餅だと言われてもいい、ただ、希望の光が僅かでもある限り、町は夢を迫って取組むというポリシーに深く感銘を受けた。こうした現場の第一線の声を、マスコミ等は大きく発信してほしいと感じた。（D.T）

★ 渡辺町長の話にもありましたが、震災当日・翌日には、原発は大丈夫だろうと思っていたということで・・・東電は、もっと詳細に起こりうる症状などを提示・発表すべきだと思う。原発所持市町村の長でさえ詳しいことは知らないで放射線汚染を受けている県民は、どうしようもないのではないかと思います。結局のところ、一時的な安心しか得られない思う中間貯蔵施設の建設についての問題も、他の県に作る話もありましたが、結局のところ県内に設置するしかない、そして最終処分場としてその役割を変えるしかないと思います。（S.A）

★ 中間貯蔵施設、災害公営住宅の建設、震災から3年半も経ったにも関わらず、まだまだ課題は山積みだと痛感させられました。私は宮城県沿岸部出身で、津波によって大きな被害を受けました。水田の塩害、地震による道路の整備、この2点は大分整備されました。しかし、私にとって非常に近い人間が、未だに仮設住宅での生活を強いられています。仮設住宅での寿命もあるため、早急な対応が必要であるにも関わらず、スピーディな対応が感じられずに、憤りを感じている人も少なくありません。福島と宮城、原発と津波で、原因は大きく異なりますが、両方、早い復興が進むことを強く願い、また将来地元の為に働けるように頑張りたいと思います。（Y.S）

★ 大熊町復興にかける渡辺町長の熱い思いに感銘を受けました。（Y.S）

★ 初めてこのような講演会に参加したが、自分が今まで参加したものとは少し違う感じがした。実際にその地区についての話を聞いて、他人事ではすまされない問題なのと思った。現在もお、被災した当時のままとすることに驚いたのと同時に、国に対しての不安や不満が浮かんできた。自分が生まれ育った場所に戻れないという現実、本当に受け入れがたいものだと私は思っているが、その気持ちをどのように支えていくのかを考えていかねばならないと改めて思った。また、私は被災地の動物達の現状について知りたい部分があるので、自分なりにその部分についても調べてみようと思った。被災したのは人間だけではなく、動物も同じだと考えている。

★ 様々な意見がある現実を受け止めながら、「帰れる環境を求める」という言葉が、印象に残りました。ここに、こだわって私たちも考えていきたいと思います。（K.O）

★ 将来的に帰還する中小企業者が、事業再開後に経営を維持させ安定化するまでの支援を、町が行える制度を今から検討してほしい。（T.G）

★ 人の幸せは、経済的・肉体的(健康)、そして精神的に満たされないと駄目かと、今の所、経済的・肉体的な面（たとえば家を建てたり、復興住宅に入ったり、健康面のサポートをしてもらったり等）に重点である様な気がしますが、幸せは、どんな環境にあっても、自分自身で解決

しなくてはならないのが人間の宿命かと思います。しかし、金銭で解決のできる部分は、国の行政の決断で即できます。それはやはりすべき。しかし、本当の復興は、逆に我々に教えさとし、苦言を呈するの必要かと。(Y.K)

★ 今回、大熊町長さんにお出でいただき、直接お聞きできたのが、本当に有難かった。このフォーラムの持つ「ふところの深さ」が、いろいろな方にお出でいただける理由かなと感じました。ただ、避難して3年、もう避難生活は極限に達しているのも事実です。ここ数日、仮設で、孤独死がお二人続きました。もう避難民を研究するのではなく、実効のある提案を、このフォーラムから出していただきたいと思います。(このフォーラムの趣旨とは反するのかも知れませんが)(Y.H)

★ 「職員の意識改革こそ必要・大事」というお考えが非常に印象的でした。だれも直面したことのない事態への対応には、新しい考え方や取り組み方は欠かせません。なので、町長自らその思いをお持ちで、実際に職員さんたちに、すでに働きかけているという事実は、もっと大々的にお話していただきたいことです。そして是非、相双地区でのお集まりの場などをお願いしたいです。(T.A)

★ 大熊町が全町避難されました経緯等について、詳細にご報告をいただきまして、感謝申し上げます。(K.F)

★ 大熊町復興まちづくりビジョン計画は、まるで夢のような町ですね。しかし、町民はこのような整備された街に住みたいのでしょうか。私は、昔ながらの下町の様子の大熊町をもう一回見たいです。あと、何もしない国に要望を出すのであるならば、「いつまでに、どのような状況になるのか？」という曖昧な言葉を投げるよりも、2015年春までには？、2015年冬までには？と細かく投げかけた方が良くと思います。まちづくりは、夢物語ではいけないと思う。実現しません。ビジョン計画のような町は、大熊町の良さを生かしていない、どこにでもある街になってしまっていて、もったいないと思います。それでは人は来ない、交通の便の良い首都圏に行ってしまうと思います。

★ 復興構想の中に、子ども・若者が戻りたくなる町づくりとあるが、そもそも健康被害を受けやすいと思われる子ども・若者を戻すのは大変だと思う。若者などの帰町を目指すのではなく、大熊町に何らかの形で関わってもらうことといった政策も必要なのではなかと考えます。(K.Y)

★ このような復興支援フォーラムに参加したことはなく、今回が初めてだったけれど、大熊町長さんの生の意見や町の計画について詳しく話を聞くことができ、とても貴重な時間でした。全国的には震災の記憶は薄まってきてしまっているように感じますが、写真を見て復興はまだまだだと感じました。県外の人にも、この現状に目を背けないでほしいと感じました。(M.A)

★ 震災・原発事故の問題の解決は、これから何十年という期間がかかってしまう問題であり、現町長の渡辺さんから、この問題の解決に関して、次の世代・若い世代に今から伝えて、あきらめない取り組みとなるようにしなくてはいけないと思った。(新しい人材を次世代から育成)。また、大熊町の近隣の町村も、大熊町と同様の問題を抱えていると思うので、近隣町村の長だけでも、意見交換・交流をしていけたら未来への見通しも立ちやすくなるかもしれないと思った。(H.K)

★ 原発などの震災によって生じた問題は、今現在でも一つも解決していないのだと改めて感じた。大熊町だけでなく、その周辺の地域の協力が不可欠だと思った。高齢者だけでなく、若い人たちが戻りたいと思うような政策が必要だと思う。(N.Y)

★ 双葉郡の中で、今、何が考えられているのかが、よくわかりました。福島若者が、意欲

的に生きられる環境を作っていきたいと思います。(H.S)

★ 町長さんの率直な話を聞いてよかったですのですが、しかし、アンケートでは町民の約7割が「町に戻らない」としているなかでの「復興まちづくりビジョン」には疑問です。「町に戻る」との人には、高齢者が多いように思いますが、復興公営老人ホーム、福祉施設の計画を立ててほしいと思います。(M.T)

★ 若い人が戻ってくる街を作るためにも、若い人の意見をくみ取る仕組みを作って欲しいです。(若い人たちと車座で対話するなど)。そこから何か課題・見通しが出てくるとと思います。(Y.I)

★ 大熊町の民間(NPO)がまだまだ低調である、との町長の認識でしたが、復興4年目において、住民参加(特に若い世代の)を促進するためにも、優先的に町の計画づくりに参加をよびかけるべきかと思います。課す少ない地元によるNPOに、期待しています。(R.S)

★ 帰還するかしないかの問題は、とても難しい問題で正解はないと思った。帰らないと言っている人も間違いではないだろうし、帰りたいと言う人の気持ちも良く分かるので、今後帰還困難区域が解除されたときの1番の課題になると思った。若い人をどう呼び戻すかがポイントと感じた。(N.M)

★ 中間貯蔵施設の受け入れのことについては、原子力発電所の事故の二の舞になってしまうのではないかという不安の声がきつとあがると思います。帰村を前提として復興を計画しているので、このことについては慎重に考えてほしいと思いました。(E.K)

★ 今まで新地町の役場の方と南相馬市の住民の方のお話を聞いたことがありましたが、大熊町のお話は、そのどれとも違ったものを感じました。お話を聞くことができるととても良い経験になりました。(A.W)

★ 「イノベーションまちづくり」に賛同します。何か大きな目標を持たなければ大熊で明るい将来像を描くことはできないでしょう。町長さんにも提案したのですが、現在シンガポール・マレーシアの合同プロジェクトで進行中のEMCを基礎とした環境タウンの方法を取り入れる案です。現在仮設住宅などで健康問題が深刻になっておりますが、新築家屋のシックハウス症候群対策としても有効です。未来を開く技術とされ、若者を引き付ける力があります。(Y.I)

★ 今後も、ご苦労が続くと思います。苦悩が伝わってきました。まだ復旧までいかず、その先に復興を目指すことになるので、本当に長期的見通しをもってやるのが大事と思いました。是非、大熊町だけでなく、双葉全体でまとまってやってほしいと思いました。前半部分で、国に要望しているが、なかなか返答がないというのは、どのようなのでしょうか。国や東電へ迫らないとなかなか復興も大変なのではないかと思いました。

★ 首長さんの考え方が聞いてよかったです。一方、本音はさすがに語れないのかなと思いました。そこは仕方ないですね。それでも参考になりました。(K.T)

★ 帰還後の大きなビジョンを描き、それを達成するために若者と共に歩いていくという姿勢を感じることができました。双葉郡全体を組織することが、難しいのはわかるが、まず行政が一つになることで、住民間の対立も少しは緩和されるのではと思った。(Y.K)

★ 今回初めて参加しました。未曾有の課題を抱えるなかで、復興構想の「大地の復活」という言葉に、とてもインパクトを受けました。奪われた大地、暮らし、家族との時間など、少しでも取り戻すことができるよう、各セクターが連携を強固にしていかなければならないと感じました。(N.K)

★ 資料もわかりやすく、大熊町の現状について知ることができました。大熊町では、復興に向けた課題や復興計画が明確に定められているので、これを達成するためにも、国や県のリーダ

ーシップがカギとなってくるのだなと感じました。町民の方々が、前向きに頑張ろうとしているというお話がとても印象的でした。(N.N)

★ 震災直後からの大熊町の動きを詳しく知ることができました。そして、現在の課題が多様化しているということで、今後、細かく対応していかなければならないということで、大変だなと思った。私は、本宮市出身ですので、わりと近辺に避難されている方々を見てきたいと思っていましたが、町長さんの話を聞き、いい意味で生々しく、今まで知らなかったことも知れて良かったです。ぜひ、町の自立を目指してこれからも頑張ってください。(Y.A)

★ 私は相馬市出身で、震災当時は高校で授業を受けていました。その時は味わったことのない恐怖などで多くの人達がパニックに陥り、その後の生活もとても大変でした。しかし、今日の話聞いて、大熊町がより大きく被害を受けて、現在でも復興に向けて一歩ずつ前向きに進んでいるということで、まだまだ私たち若い世代が頑張っていかなければならないと改めて思います。(K.T)

★ 自分は今まで復興支援に興味があると言っておきながら、このような機会があったのを知りませんでした。しかし、本日参加させていただき、直接体験した人の話を聞くことによって、被災地の人々の現状の理解が深まると共に、今、自分がやるべき課題がみえてきました。(Y.S)

★ 今まで、テレビのニュースでしか見たことのない、復興についての課題、内容などを、生で、説明を受ける機会というのはそうないと思うので、貴重な体験ができたと思う。写真を使って震災の前後の様子を比較することで、具体的に生々しい被害を理解することができました。(H.K)

★ 大熊の震災前と震災後の写真を見て、非常に辛いものがありました。復興計画をみると、町に戻るまでに住民がどのように生活していくかという内容が少ないと思いました。いわき市と会津若松市に住民が分かれている状況で、この先、会津若松市だけでなく、いわき市にも住民拠点のようなものが必要になるのかなと思いました。(S.I)

★ 福大に通う学生です。本日はフォーラムに参加させていただき、ありがとうございました。私は県外の出身で、福島、特に原子力災害被災地の現状を知る機会ほとんどなく、首長さんのお話を聞くことは殊更なかったことなので、本当に貴重な時間であったと思っています。本日の渡辺町長の話全体を聞いて、被災地の首長という役職は、一般の首長と比較して、仕事、苦勞の多い仕事だと感じました。今日の1時間弱という短い時間では、全てを知ることは不可能であると思います。次に機会があれば、もっと多く、より深い話を聞いてみたいと思います。(I.T)

★ 被災地域のリーダーからのリアルな話を聴けて、よかったです。18:00～はじめてください！！(H.T)

★ 危機管理について、改めて洗い出し、リスク想定と対応策を国任せにせず、市町村で考えなくてはならないのだと感じました。また、復興のまちづくりは、できてからの人材不足への対応が大きな課題だと、改めて感じました。全てとは言えませんが、高齢者の高齢者による高齢者の介護をしながらの楽しい生活づくりも必要ではないかと思いました。(Y.M)

★ 大熊町の被害・対応・将来のことが、これほど高い密度で学べたのは初めてで、大変有益な機会であった。町長の率直な飾らない人柄にも、また真摯な態度に感銘を受けた。いろんなことを考えさせる大変、重要な場に参加できてうれしく思う。(S.I)

★ パワーポイントを使った説明よりも、台本？なしの話が面白かった。町長の立場で、原稿を読む時間を省略してもらったら、もっと面白い話が聞けたと思う。(N.I)

★ 大地を復活させる際に、今迄の住民とともに、新たに入ってくる人達を住民として迎える



政策も重要な視点かなと・・・町長の長期視点の話の中で、そんな感想を持ちました。(T.Y)

★ 町長も、質問した参加者も、大きなジレンマを抱えていることを実感しました。遠方には分からない気持ちを少しは感じることができたと思います。何らかの方法で、金沢で発信できればと思っています。(K.M)

★ 一自治体での復興はさることながら、被災地（とくに原発）で共通化する時期が来ているように感じました。高齢者といっても多様です。同世代での復興があり得るかと思います。若者に頼るだけでなく、中高年が支える側になると言う社会がきているともいえます。(N.N)

★ 一人ひとりの考え・思いとなれば多様にならざるを得ない。それに対して町長として話をするとすると、多様な思い・意見を一つひとつをどうとらえて、ということが難しいのかなと。よく話をする大熊町の人たちの語ってくれる思い・話と町長がスライドで話をされたことに違和感を感じるところがありました。何ができるか、今後も考えながら一緒に地域で生活していきたいと思います。(M.K)

★ 生の声、メディアやインターネットで見ると全く違う印象を受けました。事故当時、福島県外にいて、最近移住してきた身としては、思っていた以上の状況に、心が痛みました。一方で、私に何かできることがあるのではないかな？何かしたいという気持ちになりました。若者×町長カフェのような形で、アイデア意見交換などできればいいと思いました。(K.O)

★ 東日本大震災・原発事故により、町民は多様な意識を持つことになったが、それぞれにニーズに対応し、次世代につなぐ町づくりに奮闘する渡辺町長さんに敬意を表したい。(R.N)

~~~~~  
【予告】第69回フォーラム 2014年7月3日(木) 18:30~20:30

「外国出身県民にとっての東日本大震災・原発事故」

報告者：斎藤隆氏(公益財団法人福島県国際交流協会・専務理事)

会場：福島市アクティブシニアセンター「AOZ(アオウゼ)」

大活動室1 (MAXふくしま4F/福島市曾根田町1-18)

~~~~~  
【予告】第70回フォーラム 2014年7月17日(木) 18:30~20:30

「県外避難者の現状と課題」

報告者：富田愛氏(NPO法人ビーンズふくしま/県内外避難者支援コーディネーター)

会場：福島市アクティブシニアセンター「AOZ(アオウゼ)」

大活動室1 (MAXふくしま4F/福島市曾根田町1-18)

~~~~~  
【予告】第71回フォーラム 2014年8月7日(木) 18:30~20:30

「土湯温泉における再生エネルギー(バイナリー発電、小水力発電)事業」

報告者：佐藤英雄氏(福島信用金庫常務理事)

会場：福島市アクティブシニアセンター「AOZ(アオウゼ)」

視聴覚室 (MAXふくしま4F/福島市曾根田町1-18)